

津市農第419号

令和6年12月27日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

津市長 前葉泰幸

市町村名 (市町村コード)	津市 (242012)
地域名 (地域内農業集落名)	前野地区 (前野)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年3月28日 (第2回)

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2：「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、ほ場整備された平地な農地において、近隣地区を営農している3者の担い手に農地集積が進んでいる。この集積状況を維持していくために、各担い手への作業効率の向上を目指し、必要な措置を進める。また、個人農家の将来的な離農も考慮しながら、地区内外で各担い手の作業効率の向上を図れるよう集約化を進めたい。

(2) 地域における農業の将来の在り方

当地区は水稻を中心で、担い手による小麦、大豆の作付けも行っている。今後もこれらの農作物の作付けを行っていく予定である。また、近年、獣害被害が発生していることから、市の助成を活用した対策を検討していきたい。担い手への集積が進んでいるので、引き続きこの状況を維持できるよう、地域と担い手との体制構築が必要。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	13 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	13 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

原則として、農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
地区内の農地の集積・集約については農地中間管理機構を通じて行うこととする。 担い手が営農困難になった場合については、農地中間管理機構の農地バンクを機能を活用することで、新規受け手への付け替えを進めることができるように機構への貸し付けを進める。 また、集積、集約については、個人農家の将来的な離農も考慮しながら、担い手への効率的な集約化を図ることで、作業効率の向上を目指した調整を図っていきたい。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
農地の貸借が発生した際は、担い手の経営意向を踏まえた上で、農地中間管理機構への貸付を経て段階的に集約化する。
(3) 基盤整備事業への取組方針
老朽化している用排水路施設等の確認を行い、必要であれば改修を進め有効利用を図っていく。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
既存担い手への集約化を進めるが、リタイヤにより営農継続が不可能となった場合、新たに地区外の担い手確保等の検討を行う。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
作業効率の向上に貢献できるものは取入れを検討する。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ① 老朽化した柵や未設置の箇所を中心に獣害対策の助成を活用しながら設置を検討していく。
- ③ 作業効率化を図れる設備投資については、助成等の活用も視野に取り入れられるものを検討していく。